

「第9回 JIMTEF 災害医療研修アドバンスコース」に参加しました

県西ブロック災害対策エリアコーディネーター

唐木整形外科 矢部 則明

平成30年11月17～18日に「JIMTEF 災害医療研修アドバンスコース」が開催され、同年9月に開催されたJIMTEF 災害医療研修ベーシックコースに引き続き、今回も日本理学療法士協会から参加させていただきました。参加人数は全体では27都道府県から11団体と一般含めて68名（ベーシック：35都道府県から12団体と一般含め126名）、そのうち日本理学療法士協会からは17名（ベーシック：33名）の参加となりました。体育館と同じ構造の講堂にて、講義とグループ演習を交互に取り入れながらの研修が進められました。

◆講義について

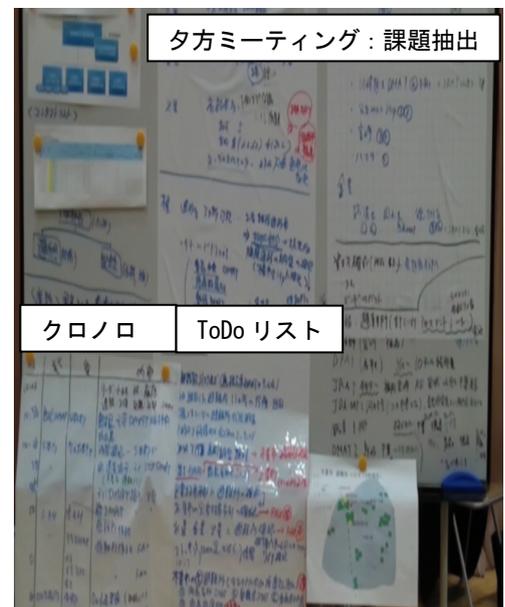
2日間で7項目（災害医療コーディネート、スフィアプロジェクト、エコノミークラス候群、熊本市における救護班等の調整と受援経験、災害時のコミュニケーションと課題、本部運営と記録、世界の災害医療の潮流）の講義があり、災害医療コーディネートでは調整本部の過剰業務負担を軽減するためのクラスターアプローチの考え方の必要性、熊本市の話では支援時には調整本部への配慮もして欲しいことや通常時では支援と同じくらい受援についても考えるべき等、今まで知らなかった貴重な話を聴講でき大変勉強になりました。

◆演習について

私のグループは、理学療法士2名、作業療法士1名、臨床心理士2名、臨床検査技師1名、鍼灸師1名の計7名で演習を行いました。大きく2つ演習があり、最初は「受援」のテーマで、発災した時には定時の仕事はどうなるか、各職種にて話し合いました。当グループでは、訪問リハビリ業務で被災された利用者の方が、ベッド上の生活が中心である場合どう支援すべきか、という事例をもとに議論しました。

次の演習では本研修のメインとなる「本部運営」を実施しました。発災直後の本部運営の状況を再現し、講師陣が細かい演習準備を下され、その結果、有意義な演習を体験することができました。本部運営では、本部長・副本部長・記録係・連絡係に役割分担（私は記録を担当）をして演習を進めていきましたが、各自が役割をしっかりとこなしていく事の重要性を認識した次第です。演習では情報が混乱することが多々あり、各役割のフォローをメンバーでしっかり行っていくことや本部長の適切な判断が重要であると痛感しました。当グループの本部長が混乱時に一旦作業を止め、メンバー内で情報の再整理を促した判断は大変勉強になりました。

☞ 図はホワイトボードの記録内容（クロナロ、ToDoリスト、課題抽出等）



◆今後の課題

訪問リハビリ等の在宅支援業務では、個人的にはケアマネや地域包括支援センターと、事前に発災時の対応を確認しておく事が大切だと思っておりますが、現状では発災時の支援体制は全く決まっておらず、今後の課題として取り組んでいく必要があると考えています。

また県西ブロックの災害対策活動にて是非、今回習得した知識や情報を活かしていきたいと思っております。

最後に、アドバンスコース研修で講義・準備をいただいた先生方、ファシリテーターの先生方、日本理学療法士協会、神奈川県理学療法士会に心より感謝の言葉を申し上げます。